

にんげん

身から出たもの 3

手術の翌日は自分の身体の変化を知ることになったのです。結局、S状結腸の切除の部分の状態などから、横行結腸に人工肛門ストーマが仮設されていました。術後の大腸の負担を考えると無理はできないとの主治医の決断でした。この決断が正しかったのは、その後の容態を考えれば十分納得できることでした。その露出した腸管をみたとき、まるで子供のころ食べた駄菓子屋のすもものようだと言っていました。このストーマには便を貯留させるパウチという袋がついていて、定期的に看護師さんが便の処理してくれます。まだまだ水様便ではありますが、紛れもなく自分の大腸からでてきたものです。また、腹腔に挿入された排出のためのドレンが二本お腹から出ています。導尿もしているので尿道からも管がでています。背中には硬膜下脊髄麻酔の細い管が注入器につながっています。鼻にもチューブ、それに点滴は抗生剤とリンゲル液とわたしの身体はまさにスパゲッティ状態でした。ただ、それらは別に不快はないのですが、じっと寝ているだけでこんなにづらい感じを味わったことはありませんでした。身の置き場のないとはこのような状態だと、つくづく思いました。また、お腹の真ん中を臍を迂回しながら20cmの長さの手術の傷がガーゼに覆われてあります。背中の麻酔はありますが、やはり傷口の痛みが気になりました。こんな状態で特別室に3日間

いましたが、29日の月曜日には一般病棟に移ることができました。すぐに、その夜から栄養補給が開始され、鼻のチューブ、導尿の管、ドレンの二本の管も口先だけ残してカットされ、硬膜下麻酔と点滴だけになりました。このときは術後初めて自分の足で歩いて病室を移動できたのです。それから、術後の経過もゆるゆるながら快復していきました。人工肛門の処置も看護師さんに教えてもらい、次第に自分でできるようになりました。ところで入院して、もっとも感じたのは内勤の看護師さんたちの献身的な仕事ぶりでした。もちろん技術的な差はベテランと経験の浅い看護師さんではかなりありましたが、チームをつくって主任クラスがフロアーごとに目配り気配りしながら、患者さんに対応していました。今の若い人たちは根気がない、やる気もないとかいいますが、この病院ではバラツキはあっても、看護師さんの質は全体的にとってもよく、エールを送りたいほど本当に頑張っていると感じました。それに、患者になって初めて分ったことといえば、普段では大人として振舞うことで封印されていた、甘えとか依頼心や疎外される不安とかが、多かれ少なかれ、わたしも含めてでてくることです。6人部屋の患者さんの会話とか、ナースコールの内容など聞くとなしに聞いていると、それが如実に表れていました。もちろんこれは、入院して最初のころの患者さん



と病院生活に馴れてきた患者さんでは対応はだんだん変わっていきま
す。とくに、入院したての患者さん
は非常にナーバスになっていますの
で、看護師さんは非常に気を使っ
ているのがわかります。経過は術後5
日目に、スープなどを口から取れる
ようになりました。その頃に開腹部
位が化膿してきて、強い痛みがで
てきてしまいました。そのために先生
は抜糸して洗浄と消毒をして膿を排
出するようにしました。当然ながら
開腹部位はパツクリとクチを開いて
グロテスクです。しかし、先生から
はそのような可能性を前もって言わ
れていたの、不安にはなりません
でした。局所麻酔はしていたので
すが、抜糸はかなり痛いもので
した。それでも入院生活はどどん
ど過ぎていき、歩行訓練で歩数も
のびて、試験外出もできるよう
になりました。友人たちの見舞い
も増えて、心身ともに快方に向
かっている実感がありました。しか
し、近いうちにがんの転移の検
査という重大な結果があり、精
神的にはかなり緊張していま
した。そして、11月6日に先生
より検査の結果を夫婦でナース
センター内で聞きました。結果
は厳しい話でリンパ節などに
転移があり、来週からの抗がん
剤開始を告げられたのです。精
神的にはかなりのショックで
したが夫婦とも意外に冷静に
聞けました。先生からは最近
では抗がん剤の効果もかなり
期待できるし、がんと共存して
、延命していく選択肢も確立
してきたと励まされました。
また、わたしががん細胞は未分
化の増

殖の強いタイプではないことも救
い
です。まず、目標は副作用で中
断することなく半年間化学療法
を続けることです。この日から
いよいよがんサバイバーとして
の道を歩むことになったので
す。それからリハビリを
つづけ体力も気力もしだいに
回復し、抗がん剤治療の大き
な副作用もなく、順調に11月
29日に早期退院することが
できました。これには、かみ
さんの毎日のマッサージと指
圧のリハビリが非常に効果があ
ったと実感しています。それ
から約一月後のクリスマス
には家族で、食養生はお休
みしてケーキを食べて、シャ
ンパンで乾杯しました。ほぼ
なんでも食べれるようになり
ました。といっても従来の食
生活ではいけませんので、か
みさんが幕内秀夫さんの食
養生を参考にして料理を
作っています。ちょうど手術
から二ヶ月です。日常的に
すこしは制約はありますが、
抗がん剤も一ヶ月サイクル
の2クール目にはいり、折
り合いもうまくいっています。
ところで、今一番強く願っ
ていることは、これからの
人生を一治療者としてま
つとうしたいということです。
このところ少しずつ患者
さんの治療も始めました。
3月初め頃をめどに本格的
な治療の再開とわたしの
技術の受け渡しもしたい
と思っています。これから、
どのように病気が動くか
わかりませんが、たんたんと
生きて行こうと思っています。
心配していただいた読者の
みなさん、治療仲間、患
者さん、友人、そして大切
な家族、みんなありがとう。



突然の休刊は本当に申し訳なく、残念な思いで一杯です。いずれまた再開を願いつつ、しばらくお休みです。読者のみなさま、ファインドとともに創刊3号より連載開始したわたしの「にげんかんさつ」を、長い間ご愛読していただきありがとうございます。心より御礼申し上げます。わたくしライオンこと神林聖二でした。

わたしの治療・セミナーを受けてみませんか

わたしの手技療法、「閾値調整療法」の施術を受けてみたい先生、そのセミナーに興味のある先生がいらっしゃいましたら連絡をお待ちしています。まだ、セミナーの日程や本格的な治療再開は検討中なので、追ってこちらからご連絡さしあげます。ご希望の先生は住所・氏名・電話番号などを電話・FAX・Eメールでお知らせください。

世田谷区奥沢 満月治療院
TEL 080-5533-9657
FAX 03-3704-9657
Eメール saint@m03.itscom.net

かんさつ